

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月10日
【四半期会計期間】	第53期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	日本ハウズイング株式会社
【英訳名】	NIHON HOUSING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小佐野 台
【本店の所在の場所】	東京都新宿区新宿一丁目31番12号
【電話番号】	03（5379）4141（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経営企画部長 吉田 裕幸
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区新宿一丁目31番12号
【電話番号】	03（5379）4141（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員経営企画部長 吉田 裕幸
【縦覧に供する場所】	日本ハウズイング株式会社 大阪支店 （大阪府大阪市中央区北久宝寺町二丁目5番9号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第1四半期 連結累計期間	第53期 第1四半期 連結累計期間	第52期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	18,967	21,655	88,540
経常利益 (百万円)	793	760	5,168
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	368	404	3,111
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	441	303	3,193
純資産額 (百万円)	21,561	23,767	23,937
総資産額 (百万円)	35,615	38,233	42,465
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	22.95	25.15	193.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	59.6	60.9	55.2

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 第52期第1四半期連結累計期間の売上高には、消費税等は含んでおりません。第53期第1四半期連結累計期間、第52期は、一部の子会社で税込方式によっております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社企業グループ(当社、子会社25社、関連会社1社、その他の関係会社2社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、主要な関係会社の異動は次のとおりです。

(マンション管理事業)

平成28年6月に株式会社AKIコミュニケーションの清算が終了いたしました。

(ビル管理事業)

平成28年4月に当社連結子会社の大連豪之英物業管理有限公司と中国国有企業の天津北辰科技園区総公司の間に合併会社の天津豪之英星辰物業服務有限公司を設立いたしました。よって、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用環境は底堅さを維持しているものの、円高・株安による企業業績の下振れ懸念の影響で個人を中心に消費マインドが冷え込んだことにより、国内景気は足踏み状態で推移いたしました。海外経済においては、中国及び新興国の景気減速や、金融市場の不安定さから先行きに対する不透明性が高まり、力強さを欠いた状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、平成28年5月に発表した3か年の中期経営計画の初年度として、マンション・オフィスビルの管理ストック増加に注力するとともに、各管理ストックにおける営繕工事の受注も積極的に進めることで、売上高については全てのセグメントで前年同期実績を上回ることができました。一方で、営業利益及び経常利益については、為替相場が円高に推移したこと等が影響し、前年同期実績を下回りました。

その結果、売上高は21,655百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は780百万円（前年同期比2.0%減）、経常利益は760百万円（前年同期比4.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は404百万円（前年同期比9.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

マンション管理事業

マンション管理事業につきましては、前連結会計年度に受託した物件が計画通りに稼働したことに加え、当社ネットワークを活かした営業活動に注力した結果、管理ストックの増加を果たすことができました。一方で、前期寄与した損害保険契約は、複数年契約が中心であったことから契約件数及び利益とも当第1四半期では減少いたしました。

また、現場労務費を中心とした売上原価の上昇及び人材への投資・育成を目的とする人件費が増加いたしました。

その結果、売上高は11,142百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益は907百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

ビル管理事業

ビル管理事業につきましては、新たにグループ化したベトナムの子会社であるPAN SERVICESの収益が期初から寄与いたしました。中国の子会社である大連豪之英物業管理有限公司が円高の影響を受けました。

その結果、売上高は2,537百万円（前年同期比21.7%増）、営業利益は151百万円（前年同期比41.8%減）となりました。

不動産管理事業

不動産管理事業につきましては、新規顧客獲得のため、積極的な営業活動に注力した結果、管理ストックの拡充を果たせたのに加え、リフォーム工事やサブリース等の受注も好調に推移いたしました。

その結果、売上高は1,313百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は171百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

営繕工事業

営繕工事業につきましては、当社において春季の大規模修繕工事が計画どおりに推移したことに加え、前連結会計年度にグループ化した株式会社亜細亜総合防災が着手していた長期プロジェクトの完工などが売上・利益に寄与いたしました。また、管理会社ならではの適時適切な提案が奏功し、小修繕工事についても好調に推移いたしました。

その結果、売上高は6,661百万円（前年同期比36.5%増）、営業利益は336百万円（前年同期比586.5%増）となりました。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社企業グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3)研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,080,000	16,080,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数100株
計	16,080,000	16,080,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	16,080,000	-	2,492	-	2,293

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,700	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 16,078,000	160,780	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	16,080,000	-	-
総株主の議決権	-	160,780	-

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
日本ハウズイング株式会社	東京都新宿区新宿1-31-12	1,700	-	1,700	0.01
計	-	1,700	-	1,700	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,184	12,409
受取手形及び売掛金	9,581	7,789
販売用不動産	66	66
未成工事支出金	1,206	1,709
原材料及び貯蔵品	120	110
繰延税金資産	599	628
その他	673	710
貸倒引当金	42	40
流動資産合計	27,388	23,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,544	2,515
機械装置及び運搬具(純額)	72	76
工具、器具及び備品(純額)	481	491
土地	7,182	7,168
建設仮勘定	18	0
有形固定資産合計	10,299	10,251
無形固定資産		
のれん	1,099	1,053
その他	1,393	1,282
無形固定資産合計	2,492	2,336
投資その他の資産		
投資有価証券	188	180
差入保証金	1,012	1,008
繰延税金資産	512	514
その他	713	700
貸倒引当金	142	142
投資その他の資産合計	2,284	2,262
固定資産合計	15,076	14,850
資産合計	42,465	38,233

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,755	3,601
短期借入金	792	600
1年内返済予定の長期借入金	447	442
未払法人税等	1,292	438
賞与引当金	1,684	856
役員賞与引当金	11	2
その他	7,774	6,875
流動負債合計	16,758	12,817
固定負債		
長期借入金	623	514
退職給付に係る負債	499	489
繰延税金負債	47	46
その他	599	597
固定負債合計	1,769	1,648
負債合計	18,528	14,466
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,492	2,492
資本剰余金	2,293	2,293
利益剰余金	18,592	18,519
自己株式	1	1
株主資本合計	23,377	23,303
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40	34
為替換算調整勘定	45	45
退職給付に係る調整累計額	23	21
その他の包括利益累計額合計	63	32
非支配株主持分	496	496
純資産合計	23,937	23,767
負債純資産合計	42,465	38,233

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	18,967	21,655
売上原価	13,899	16,338
売上総利益	5,068	5,317
販売費及び一般管理費	4,271	4,536
営業利益	796	780
営業外収益		
受取利息	0	3
受取配当金	1	1
その他	24	16
営業外収益合計	27	21
営業外費用		
支払利息	9	6
為替差損	0	21
その他	21	15
営業外費用合計	30	42
経常利益	793	760
税金等調整前四半期純利益	793	760
法人税等	385	332
四半期純利益	408	428
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	368	404

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	408	428
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	6
為替換算調整勘定	9	119
退職給付に係る調整額	4	1
その他の包括利益合計	33	124
四半期包括利益	441	303
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	405	308
非支配株主に係る四半期包括利益	36	5

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

平成28年4月に当社連結子会社の大連豪之英物業管理有限公司と中国国有企業の天津北辰科技園区総公司の間に合併会社の天津豪之英星辰物業服務有限公司を設立いたしました。よって、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

平成28年6月に株式会社A K Iコミュニケーションの清算が終了いたしました。

(会計方針の変更)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の方法の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)からに該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産(投資その他の資産)及び利益剰余金が4百万円増加しております。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当社及び国内連結子会社の税金費用については、原則として、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。また、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を用いた計算をしております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
受取手形割引高	22百万円	- 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	196百万円	200百万円
のれんの償却額	24	45

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	450	28.00	平成27年 3月31日	平成27年 6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	482	30.00	平成28年 3月31日	平成28年 6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	マンション 管理事業	ビル 管理事業	不動産 管理事業	管繕工事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,761	2,085	1,239	4,881	18,967	-	18,967
セグメント間の内部 売上高又は振替高	112	4	66	0	182	182	-
計	10,874	2,089	1,305	4,881	19,150	182	18,967
セグメント利益	1,064	260	161	48	1,535	739	796

(注)1. セグメント利益の調整額 739百万円は、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 739百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

管繕工事業において、株式会社亜細亜総合防災の全株式を当第1四半期連結累計期間に取得したことにより、のれんが125百万円発生しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	マンション 管理事業	ビル 管理事業	不動産 管理事業	管繕工事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,142	2,537	1,313	6,661	21,655	-	21,655
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	2	66	0	71	71	-
計	11,145	2,540	1,379	6,662	21,727	71	21,655
セグメント利益	907	151	171	336	1,565	784	780

(注)1. セグメント利益の調整額 784百万円は、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 785百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間に「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」を適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更によるセグメント利益に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	22円95銭	25円15銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	368	404
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	368	404
普通株式の期中平均株式数 (千株)	16,078	16,078

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月10日

日本ハウズイング株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 関谷 靖夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉川 高史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ハウズイング株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ハウズイング株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。